



TITLE:

中國文學報既刊總目(1954年10月第一冊 - 1995年4月第五十冊)

AUTHOR(S):

CITATION:

中國文學報既刊總目(1954年10月第一冊 - 1995年4月第五十冊). 中國文學報 1995, 50: 1-13

ISSUE DATE:

1995-04

URL:

<https://doi.org/10.14989/177573>

RIGHT:

中國文學報既刊總目

(1954年10月第一冊～1995年4月第五十冊)

中國文學報
第五十冊

1 總 記

虛 字 考

中國古代文學之比較研究

(中國古代文學之比較研究)〔附論〕サンスクリ
ットの四つの流母音 R, R̄, L, L̄ とその中
國文學への影響

中國古代詩歌の比興和想像

中國古代文學理論的民族特點

文學と消憂——魏晉時代まで——

枯れ木にさく詩——詩的イメージの一系譜——

抒情的五言詩の成立について

もう一つの文筆説——「筆」をめぐる試論——

中國古代的詩論和畫論

いくつかの敦煌文獻にもとづく後期道教の諸相

語から説へ——中國における「小説」の起源を
めぐって——

伎樂源流考

鳳凰とフェニックス

落英(l)——早年讀書生活的回想——

落英(r)——早年讀書生活的回憶——

書評：李長之『中國文學史略稿』林庚『中國文
學簡史』

書評：魚返善雄・高田淳共譯 オデイル・カル
タンマルク・ゲキエ『中國文學史』

書評：グレン・バクスタ「中國文學」陳世驥
「中國文學」小川環樹「中國文學」

書評：アンドレ・レヴィ著『中國古典文學』

書評：シリル・バーチ『中國文學の諸ジャンルの
研究』

陳世驥「詩經、その中國の文學の歴史及び詩
學における特質的意義」

デイヴィッド・ホークス「女神の探究」

ハンス・H・フランケル「樂府詩」

ジェームズ・R・ハイトワ「陶潜詩の典故」

劉若愚「『詞』の文學的特質」趙葉嘉瑩「吳文
英の『詞』——現代的な視點から——」

青 木 正 兒

饒 宗 頤

饒 宗 頤
(金 文 京 譯)

周 祖 謨

張 少 康

釜 谷 武 志

興 膳 宏

松 家 裕 子

幸 福 香 織

張 少 康

ミシェル・スワミエ
(興 膳 宏 譯)

小 南 一 郎

濱 一 衛

ジャン・ピエール・
ディエニ
(興 膳 宏 譯)

魯 國 堯

魯 國 堯

荒井 健・一海知義
清水 茂・高橋和巳
村上哲見

島 田 久 美 子

吉 川 幸 次 郎

興 膳 宏

前 山 愼 太 郎

平 田 昌 司

小 池 一 郎

矢 淵 孝 良

高 橋 文 治

4

32

32

36

37

50

41

42

49

45

40

50

9

39

44

45

4

7

8

45

26

26

26

26

26

26

ジェームズ・I・克蘭プ「元曲の傳統と技巧」	川 口 伸	26
シリル・バーチ「明代傳奇に關する若干の問題と方法」	金 文 京	26
ヤロスラフ・プルシエク「瓦子——民間文藝の搖籃期」	阿 辻 哲 次	26
パトリック・ハナン「中國短篇小説の早期——その概括的批評理論」	山 崎 康 子	26
夏志清「軍記物語：中國小説の一樣式」	小 濱 陵 一	26
書評：羅根澤『中國文學批評史』	小 川 環 樹	21
書評：林田愼之助『中國中世文學評論史』	釜 谷 武 志	32
書評：斯波六郎『中國文學に於ける孤獨感』	入 矢 義 高	2
書評：斯波六郎『中國文學に於ける孤獨感』	福 永 光 司	9
書評：『浦江清文錄』	清 水 茂	11
書評：倉石武四郎・須田禎一編譯『歷代詩選』	武 部 利 男	15
書評：V・H・メイヤー著『四人の詠懷詩人——阮籍・陳子昂・張九齡・李白による連作詩集の索引——』	道 坂 昭 廣	40
書評：北京大學中文系文學專門科一九五五級集體編著『中國小説史稿』	橋 本 堯	15
書評：李希凡『論中國古典小説の藝術形象』	入 谷 仙 介	16
書評：夏承燾・吳熊和『讀詞常識』	小 川 環 樹	19
書評：王力『漢語詩律學』	小川環樹・入矢義高	9
書評：張相『詩詞曲語辭匯釋』	入 矢 義 高	1
書評：田仲一成『中國祭祀演劇研究』『中國の宗族と演劇』『中國鄉村祭祀研究 地方劇の環境』	小松 謙・金 文京	42
書評：莊司格一・清水榮吉・志村良治譯『中國の笑話』	興 膳 宏	22
書評：吉川幸次郎『讀書の學』——フランス文學の一讀者による紹介と感想——	中 川 久 定	28
書評：彭楚南譯 N・I・コンラッド『論漢語』	清 水 雄 二 郎	2
紹介：人民共和國に於ける世界文學選讀書目	都 留 春 雄	2
紹介：中國における書論研究の現状と課題	大 野 修 作	48

2 先秦文學

「暮れる」ということ——古代詩の時間意識——	小 池 一 郎	24
殷周開國の神話と「神代史」	大 野 圭 介	46
詩經とヨーロッパの民謠	ジャン・ピエール・ ディエニ	18
詩經の新古層辨別の一標準	高 田 時 雄	25
左傳の書き方——その文學的側面について——	バートン・ワトソン	7
帛書老子文體考	小 池 一 郎	29
書評：E・パウンド『詩經』英譯	バートン・ワトソン	3

書評：F・テーケイ『中國の悲歌の誕生——屈原とその時代』

井 波 律 子 24

3 漢代文學

五言詩起源於婦女文學考	吳 世 昌	36
漢魏六朝における「銘」	釜 谷 武 志	40
項羽の垓下歌について	吉 川 幸 次 郎	1
漢の高祖の大風歌について	吉 川 幸 次 郎	2
賈誼の賦について	金 谷 治	8
賈誼の「鵬鳥の賦」の立場	伊 藤 富 雄	13
韓詩外傳の一考察——説話を主體とする詩傳の持つ意義——	西 村 富 美 子	19
文學としての孔子世家	バートン・ワトソン	2
史記にあらわれた司馬遷の因果應報の思想と運命觀	今 鷹 眞	8
史記における人間描寫	田 中 謙 二	13
身振りと文學——史記成立についての一試論——	宮 崎 市 定	20
「陌上桑」をめぐる	松 家 裕 子	39
「孔雀東南飛」の背景	松 家 裕 子	50
「客難」をめぐる	谷 口 洋	43
揚雄の「解嘲」をめぐる——「説論」の文學ジャンルとしての成熟と變質——	谷 口 洋	45
後漢における「説論」の變質と解體	谷 口 洋	49
「論衡」に於ける意・數・體	小 池 一 郎	35
推移の悲哀——古詩十九首の主題——(日)(中)(英)	吉 川 幸 次 郎	10, 12, 14
敦煌出現の胡笳十八拍	小 島 祐 馬	13
書評：バートン・ワトソン「古代の中國文學」	金 谷 治	19
書評：吉川幸次郎「項羽の垓下歌について」「漢の高祖の大風歌について」	桑 原 武 夫	4
書評：賀次君『史記書錄』	神 田 喜 一 郎	10
書評：ワトソン『太史公、司馬遷』同『太史公書——司馬遷の史記よりの翻譯』	今 鷹 眞	18
書評：ロナルド・C・ミャオ『中國中世前期の詩歌——王粲（一七七—二一七）の生涯と詩歌』	蒲 豐 彦	38
紹介：「胡笳十八拍」論争	入 矢 義 高	13

4 魏晉南北朝文學

「賦得」の意味について	斯 波 六 郎	3
六朝文學に現はれた山水觀	小 尾 郊 一	8
文選挽歌詩考	一 海 知 義	12
冥界游行(日)(英)	前 野 直 彬	14, 15

魏・晉詩における「夕日」について	森 博 行	23
南朝の戀歌	小 南 一 郎	23
六朝模擬詩小考	衣 川 賢 次	31
釋「放蕩」——兼論六朝文風	鄧 仕 樑	35
〈居〉の文學——六朝山水／隱逸文學への一視座——	齋 藤 希 史	42
阮瑀の五言詩について	下 定 雅 弘	24
王粲詩論考	伊 藤 正 文	20
王粲詩について	下 定 雅 弘	29
劉楨贈答詩論	龜 山 朗	47
曹 操 論	井 波 律 子	23
漢魏詩における寓意的自然描寫——曹植「吁嗟篇」を中心に——	龜 山 朗	31
建安年間後期の曹植の〈贈答詩〉について	龜 山 朗	42
嵇康詩小論	興 膳 宏	15
嵇康の飛翔	興 膳 宏	16
阮籍の詠懷詩について（上）（下）	吉 川 幸 次 郎	5, 6
阮籍の飛翔	川 合 康 三	29
徘徊と逍遙——阮籍「詠懷詩」の一考察——	森 田 浩 一	41
潘 岳 論	高 橋 和 巳	7
潘岳「悼亡詩」論	齋 藤 希 史	39
潘岳「西征賦」攷	原 田 直 枝	44
陸機の生涯と「文賦」制作の正確な年代	陳 海 世 知 義 譯	8
陸機の傳記とその文學（上）（下）	高 橋 和 巳	11, 12
陸機文賦理論與音樂之關係	饒 宗 頤	14
陸機賦論探微	曹 虹	46
美としての樂へ——「文賦」における音——	木 津 祐 子	50
陸雲「兄への書簡」——その文學論的考察——	釜 谷 武 志	28
左思と詠史詩	興 膳 宏	21
陸庾連珠小考	横 山 弘	22
西晉の詩人張協について	一 海 知 義	7
詩人としての郭璞	興 膳 宏	19
『搜神記』の文體	小 南 一 郎	21
歸去來の辭について	吉 岡 義 豐	6
嵇康・阮籍から陶淵明へ——矛盾感情の文學的處理における三つの型——	鈴 木 修 次	18
謝 朓 詩 論	井 波 律 子	30
江淹「雜體詩」三十首について	森 博 行	27

梁初の文學集團	21
劉勰『文心雕龍』文學論の基礎概念の検討	3
論鍾嶸《詩品》的思想基礎	46
任昉述異記について	13
「哀江南賦」論——鋪陳に於ける時間——	49
書評：王運熙・楊明著『魏晉南北朝文學批評史』	43
書評：小尾郊一『中國文學に現われた自然と自然觀——中世文學を中心として——』	19
書評：D・ホルツマン『嵇康の生涯と思想』	13
書評：王瑤編注『陶淵明集』	6
書評：岡村繁『陶淵明——世俗と超俗』	25
書評：D・R・コネクタス譯『文選』第一卷・第二卷	44
書評：葉笑雪『謝靈運詩選』	12
書評：小西昇『小西昇中國文學論集 漢代樂府謝靈運詩論集』	35
書評：網祐次『中國中世文學研究——南齊永明時代を中心として——』	13
書評：斯波六郎「文心雕龍原道篇札記」「文心雕龍札記(二)」	3
書評：高松亨明『詩品詳解』	14
書評：高木正一譯註『鍾嶸詩品』	30
書評：アン・バーレル譯『玉臺新詠』	39
紹介：中國における一九八〇年以降の鍾嶸《詩品》研究概観(一)	44
紹介：中國における一九八〇年以降の鍾嶸《詩品》研究概観(二)	45

5 隋唐文學

詩品から詩話へ	47
新撰類林抄校讀記	11
隋の煬帝について——その詩に關する一考察——	37
隋書經籍志序譯注(一)~(七)	25, 27~32
搜玉小集について	15
陳子昂「感遇」詩三十八首の世界	36
盛唐詩人と前代の詩人——盛唐に於ける文學論の一面——(以f)	8, 10
王維の前半生	11
中年期の王維	15
晩年の王維(以f)	18, 19
王維與錢起	39
李白の樂府について	9

森 野 繁 夫	21
高 橋 和 巳	3
張 伯 偉	46
森 野 繁 夫	13
原 田 直 枝	49
釜 谷 武 志	43
寛 文 生	19
福 永 光 司	13
一 海 知 義	6
矢 淵 孝 良	25
齋藤希史・谷口洋	44
原田直枝	
高 木 正 一	12
矢 淵 孝 良	35
小 尾 郊 一	13
吉 川 幸 次 郎	3
入 矢 義 高	14
釜 谷 武 志	30
畑 山 桂 子	39
清 水 凱 夫	44
清 水 凱 夫	45
興 膳 宏	47
小 川 環 樹	11
道 坂 昭 廣	37
興膳 宏・川合康三	25, 27~32
伊 藤 正 文	15
森 博 行	36
伊 藤 正 文	8, 10
入 谷 仙 介	11
入 谷 仙 介	15
入 谷 仙 介	18, 19
馬 曉 地	39
島 田 久 美 子	9

李白の作詩の年代	小 川 環 樹	23
月明の中の李白	興 膳 宏	44
同時代人の見た楊貴妃——李白・杜甫の詩歌に おける比擬表現を中心に——	戸 崎 哲 彦	43
吾道長悠悠——杜甫の自覺——	小 川 環 樹	17
乾坤と天地	入 谷 仙 介	17
——杜甫の世界觀の手がかりとして——	倉 田 淳 之 介	17
杜詩に於ける抒情	吉 川 幸 次 郎	17
杜 甫 と 月	高 木 正 一	17
杜甫の馬・鷹の詩について	高 木 正 一	1
杜詩の對句についての一考察	杉 本 行 夫	17
出塞と何國の連章詩 前出塞と後出塞	田 中 謙 二	17
杜詩「聞官軍收河南河北」考	饒 宗 頤	17
論杜甫夔州詩	黑 川 洋 一	4
杜甫「秋興八首」序說	黑 川 洋 一	6
杜甫「登岳陽樓」の詩について——「吳楚東南坼、 乾坤日夜浮」考——	夏 承 燾	17
杜甫與高適——杜甫札叢之一——	伊 藤 正 文	17
杜甫と元結・「篋中集」の詩人たち	一 海 知 義 彬	17
放翁と杜甫	前 野 直 彬	17
陸游の目に映じた杜甫	黑 川 洋 一	27
杜甫「又呈吳郎」の詩について——「即訪遠客雖 多事，便插疏籬却甚眞」——	沈 慶 昊	37
李氏朝鮮における杜甫詩集の刊行について	森 博 行	48
杜詩における「陶謝」	入 矢 義 高	3, 4
——「眞」字を手がかりに——	増 田 清 秀	21
王梵志について (以下)	深 澤 一 幸	24
中唐詩人の樂府	井 口 孝	28
韋應物の歌行	川 合 康 三	44
玉川子の詩	中 原 健 二	47
詩は世界を創るか	川 合 康 三	50
——中唐における詩と造物——	饒 宗 頤	19
詩人と妻——中唐士大夫意識の一斷面	川 合 康 三	41
終南山の變容——盛唐から中唐へ——	周 雲 喬	48
韓愈南山詩與曇無讖譯馬鳴佛所行讚	中 純 子	45
韓愈と白居易——對立と融和——	山 本 和 義	9
白居易の制誥の新體と舊體について	高 橋 美 千 子	32
填詞への目覺め——白居易杭州滞在期の文學的 意味——	清 水 茂	2
元稹の豔詩及び悼亡詩について		
元稹の夢についての考察		
柳宗元の生活體驗とその山水記		

柳宗元詩考	笈 文 生	16
柳宗元の文學作品に見る合理主義的側面と非合理主義的側面の交錯	松 村 眞 治	22
柳宗元の明道文學 ——陸淳の春秋學との關係——	戸 崎 哲 彦	36
柳宗元と中唐の佛教	戸 崎 哲 彦	38
宋人の見た柳宗元	副 島 一 郎	47
李賀の詩——特にその色彩について——	荒 井 健	3
李賀とその詩	川 合 康 三	23
李賀と比喻	川 合 康 三	33
賈 島	荒 井 健	10
溫飛卿の文學	村 上 哲 見	5
李義山の無題詩	鈴 木 虎 雄	6
李商隱の戀愛詩	川 合 康 三	24
晚唐詩の「夢」——李商隱と杜牧の一側面——	松 岡 秀 明	30
皎然詩式の構造と理論	興 膳 宏	50
教坊記辨 <small>附</small> 望江南菩薩蠻小考	村 上 哲 見	10
燭背・燈背ということ——讀詞瑣記——	村 上 哲 見	1
沈亞之と小説	内 山 知 也	12
唐代小説史における根本説一切有部律	平 田 昌 司	50
杜牧と傳奇	清 水 茂	1
「王昭君變文」考	金 文 京	50
書評：夏承燾『唐宋詞人年譜』	清 水 茂	5
書評：ペンギンの中國詩の英譯	バートン・ワトソン	24
書評：前野直彬『唐代の詩人達』	清 水 茂	23
書評：平野顯照『唐代文學と佛教の研究』	笈 文 生	30
書評：松浦友久『詩語の諸相 ——唐詩ノート——』	山 本 敏 雄	33
書評：吉川幸次郎・桑原武夫『新唐詩選續篇』 倪海曙『唐詩の翻譯』	清 水 茂	3
書評：前野直彬注解『唐詩選』	花 房 英 樹	18
書評：中國社會科學院文學研究所『唐詩選』	清 水 茂	32
書評：ルイ・リコー、ニエム・トアン共譯『武則天』（佛譯）	都 留 春 雄	15
書評：チャン・インナン、レウイス・ウオルムスレイ『王維の詩』英譯	バートン・ワトソン	11
書評：入谷仙介『王維研究』	井 口 孝	27
書評：王瑤『李白』林庚『詩人李白』武部利男 『李白小傳』	福 永 光 司	4
書評：黃錫珪『李太白年譜』詹鍔『李白詩文繫年』	島 田 久 美 子	10
書評：松浦友久『李白研究——抒情の構造——』	武 部 利 男	27

- 『李白研究——抒情の構造——』補稿——武部利男氏の書評に答える——
書評：郭沫若『李白與杜甫』
書評：吉川幸次郎『杜甫Ⅰ』
書評：張錫厚校輯『王梵志詩校輯』
書評：蔣寅『大曆詩風』
書評：太田次男著『中唐文人考——韓愈・柳宗元・白居易』
書評：陳友琴『白居易詩評述彙編』
書評：近藤春雄「長恨歌傳について」
書評：武部利男譯『白樂天詩集』
書評：朱金城『白居易集箋校』
書評：瞿蛻園『劉禹錫集箋證』三分冊
書評：施子儉『柳宗元年譜』
書評：孫昌武『柳宗元傳論』
書評：章士釗『柳文指要』
書評：石川一成「李長吉の色彩感覺」李嘉言「李賀與晚唐」「詞的起源與唐代政治」「李賀詩校釋」上尾龍介「苦吟と象徵」「李賀と孟郊」「夜の詩人」
書評：荒井健『李賀』葉葱奇編訂『李賀詩集』
書評：A・ホフマン『李煜の詞』『春花秋月』
書評：H・S・レヴィ譯註『陽氣な女神たちの館』八木澤元『遊仙窟全講』
書評：アーサー・ウェイリー譯注『敦煌の歌謡と説話』
書評：周紹良『敦煌變文集錄』
書評：蔣禮鴻『敦煌變文字義通釋』
書評：金岡照光『敦煌出土文學文獻分類目錄』『敦煌の文學』
書評：V・H・メイヤー著『唐代變文——中國俗文學形成への佛教の貢獻』
紹介：杜甫誕生千二百五十周年
紹介：李後主の詞に關する討論

松浦友久	28
寛久美子	23
小南一郎	22
松尾良樹	36
赤井益久	47
寛文生	48
花房英樹	14
花房英樹	2
西村富美子	34
太田次男	41
齋藤茂	45
寛文生	10
戸崎哲彦	35
寛文生	24
荒井健	7
興膳宏	12
村上哲見	2
入矢義高	22
入矢義高	16
入矢義高	5
入矢義高	11
入矢義高	23
小南一郎	46
寛文生	17
村上哲見	7

6 宋代文學

- 柳永詞について
——その艶詞に關する一考察——
新五代史の文體の特色
「隱」「秀」表現の知覺言語的検討——宋代詩話を中心に——
詩における比喩の巧拙の雅俗
——蘇東坡の場合——
蘇軾詩論稿
蘇東坡書簡の傳來と東坡集諸本の系譜について

中原健二	25
小川環樹	18
岡本不二明	28
小川環樹	2
山本和義	13
村上哲見	27

蘇軾の自然描寫 ——杭州通判期の詩をめぐって——	湯 淺 陽 子	46
蘇軾の吏隱——密州知事時代を中心に——	湯 淺 陽 子	48
岳飛「滿江紅」詞考辨	夏 承 燾	16
朱熹『楚辭集注』攷	小 南 一 郎	33
朱子語類讀書法篇譯注 (一)~(三)	興膳宏・木津祐子 齋藤希史	48~50
楊誠齋の詩	西 岡 淳	42
辛棄疾「菩薩蠻」(鬱孤臺下) 補考 『劍南詩稿』に於ける詩人像——「狂」の詩人 陸放翁——	小 川 環 樹 西 岡 淳	14 40
宋代演劇窺管 ——陸游・劉克莊詩を資料として——	岩 城 秀 夫	19
書評：孫楷第『論中國短篇白話小説』葉德均『宋 元明講唱文學』	小 川 環 樹	1
書評：胡忌『宋金雜劇考』	岩 城 秀 夫	8
書評：錢鍾書『宋詩選注』	小 川 環 樹	10
書評：村上哲見『宋詞研究』(唐五代北宋篇)	中 原 健 二	27
書評：M・A・フラー著『東坡への道——蘇軾 の詩境の發展——』	湯 淺 陽 子	49
書評：歐小牧『愛國詩人陸游』	小 川 環 樹	7
書評：朱東潤『陸游傳』	小 川 環 樹	13
書評：朱東潤『陸游研究』于北山『陸游年譜』	小 川 環 樹	16

7 金元代文學

元刊古今雜劇三十種の流傳	岩 城 秀 夫	14
金末の土風と元曲	高 橋 文 治	34
元雜劇の開場について	小 松 謙	38
張協狀元戲文について	赤 松 紀 彦	50
文學としての『董西廂』(B)(C)	田 中 謙 二	1, 2
白仁甫の文學	金 文 京	26
汗衫劇について ——元刊本・明抄本と明刊本——	赤 松 紀 彦	34
小説『李娃傳』の劇化 ——『曲江池』と『繡襦記』——	金 文 京	32
『賺劇通』雜劇の構造について	小 松 謙	34
明七子の先聲——楊維禎の文學觀について——	前 野 直 彬	5
書評：J・T・ウィクステッド譯注 元好問『論 詩絕句』	高 橋 文 治	38
書評：顧學頤選註『元人雜劇選』	入 矢 義 高	8
書評：影弘治刊本『西廂記』王季思校注『西廂 記』吳曉鈴校注『西廂記』王季思『從鶯鶯傳 到西廂記』	田 中 謙 二	4
書評：嚴敦易『元劇斟疑』	岩 城 秀 夫	15
紹介：山西中南部の戲曲文物とその研究	赤 松 紀 彦	37

8 明代文學

明の宮廷と演劇	岩 城 秀 夫	1
小説戯曲在明代文學史上的地位	王 利 器	37
戯曲荊釵記はいかに改作されているか	岩 城 秀 夫	6
劉基詩序説	福 本 雅 一	18
王世貞の古文辭説よりの脱化について	松 下 忠	5
王世貞悔作卮言説辨	顔 婉 雲	33
袁中郎の性靈説	松 下 忠	9
屈大均の詞	清 水 茂	50
殘唐五代史演義論——英雄中心主義——	橋 本 堯	20
『三國演義』における趙雲像	上 野 隆 三	38
西遊記の成立	中 鉢 雅 量	35
『金瓶梅詞話』所引の寶卷について	澤 田 瑞 穂	5
書評：八木澤元『明代劇作家研究』	岩 城 秀 夫	11
書評：井上泰山 大木康 金文京 氷上正 古 屋昭弘共著『花關索傳の研究』	上 野 隆 三	41
書評：F・W・モート『詩人高啓』	入 谷 仙 介	20
書評：J・J・L・ドイフェンダク『中國の神 曲』	前 野 直 彬	2
書評：ビショップ『三言の研究』	小 川 環 樹	5
書評：馮夢龍編著顧學頤校注『醒世恒言』	田 中 謙 二	6
書評：人民文學出版社『水滸』作家出版社『水 滸』人民文學出版社『水滸全傳』	清 水 茂	1
書評：R・アーウィン『水滸傳の發達史』	小 川 環 樹	3
書評：張國光『《水滸》與金聖歎研究』	中 鉢 雅 量	34
紹介：最近の中國における琵琶記論争	岩 城 秀 夫	6
紹介：湖北省三國關係遺跡	上 野 隆 三	40
紹介：中國四川國際三國文化研討會——中國に おける『三國演義』の研究動向——	上 野 隆 三	46

9 清代文學

文學批評家としての錢謙益	吉 川 幸 次 郎	31
吳梅村研究（前篇・後篇）	小 松 謙	39, 40
論王漁洋《秋柳》詩之朦朧美	馬 曉 地	38
『宋詩鈔』の選者たち——「人」によって「史」 を存す——	湯 淺 幸 孫	20
『聊齋志異』の會話表現について	岡 本 不 二 明	37
紅樓夢の構成について	加 藤 知 彦	4

對人稱呼の使用における「正格」と「破格」について——『紅樓夢』における文體論的研究——	山口明子	11
林黛玉論——日常的解體を超えんとして——	小濱陵一	26
《紅樓夢》——その内なる軌み	小濱陵一	30
『隨園詩話』の世界	松村昂	22
袁枚「性靈說」及其與其他詩派的關係	李銳清	38
「林譯小說」前的翻譯小說	李慶國	48
黃遵憲と宮島誠一郎——日・清政府の官僚文人の一軌跡——	寛久美子	50
躍動する精神 ——王國維の文學理論について——	井波陵一	42
躍動する精神(續) ——王國維の史學について——	井波陵一	43
京都時代の王國維と鈴木虎雄(附:鈴木虎雄宛の王國維未發表書簡)	錢鷗	49
書評:福建師範大學中文系古典文學教研室選注『清詩選』	松村昂	37
書評:李厚基・韓海明『人鬼狐妖の藝術世界——《聊齋志異》散論(附選注百篇)』	岡本不二明	35
書評:デイヴィッド・ホークス譯 曹雪芹《石頭記》	小濱陵一	29
紹介:紅學界の現状簡介	井波陵一	34
紹介:紅樓夢研究をめぐる批判討論の經過と論點	村上哲見	2
紹介:京都における羅振玉と王國維の寓居	錢鷗	47

10 現代文學

新時期文學における愛の諸相	三枝祐美	46
雜誌『紅黑』	吉田富夫	50
瞿秋白と初期左聯	淺野純一	36
魯迅の小説の側面——主として作品「藥」について——	相浦杲	10
魯迅『野草』論	吉田富夫	16
魯迅と厨川白村	楠原俊代	26
李劫人の成都描寫	中裕史	41
『太陽照在桑乾河上』をめぐる	島田久美子	5
「百家争鳴」その後	入矢義高	6
何其芳の永恆——「花環」と「扇」を中心に	中裕史	50
〈子夜〉について	山田富夫	9
茅盾文學序説——『腐蝕』を中心として——	吉田富夫	12
茅盾の性慾描寫論と『蝕』『野薔薇』における性愛	三枝茂人	40
『家』について——巴金の小説意識についての考察——	下條一誠	11
端木蕻良の文學に於けるトルストイの影響	村田裕子	33

- 胡萬春という作家
書評：人民文學出版社『魯迅全集』増田渉・松枝茂夫・竹内好編『魯迅選集』
書評：魯迅撰『中國人民解放軍五一一〇一部隊理論組』註《吶喊》魯迅撰『天津碱廠工人理論組・南開大學中文系』註《彷徨》
書評：丸尾常喜『魯迅「人」「鬼」の葛藤』
書評：蕭鳳『蕭紅傳』
書評：小田嶽夫『郁達夫傳——その詩と愛と日本』
書評：王康『聞一多傳』
書評：王瑤『中國新文學史稿』
書評：尾坂徳司『中國新文學運動史』
書評：加藤平八譯茅盾『東洋のリアリズム』
紹介：胡風批判の經過とその論點
紹介：丁玲批判について
紹介：丁玲の故郷を訪ねて——湖南省臨澧，常德，桃源，長沙——
紹介：歴史劇『海瑞罷官』をめぐる學術政治論争
紹介：第三回中國文學藝術工作者代表大會をめぐって
資料：藤野先生小傳

11 比較文學

- 日本に於ける杜甫
藤村における杜甫——「ただひとり岩をめぐりて、この岸に愁を繋ぐ」——
『女仙外史』と幸田露伴の『運命』
書評：太田青丘『日本歌學と中國詩學』
書評：小島憲之『上代日本文學と中國文學』(上)
書評：丸山キヨ子『源氏物語と白氏文集』

12 日本漢文學史

- 隠れたる批評家——清田儋叟の批評的業績——
漱石詩六則
書評：小島憲之校注『懷風藻・文華秀麗集・本朝文粹』
書評：渡邊照宏・宮坂有勝校注『三教指歸・性靈集』
書評：川口久雄『平安朝日本漢文學史の研究』
書評：入谷仙介注『賴山陽・梁川星巖』黒川洋一注『菅茶山・六如』揖斐高注『市川寛齋・大窪詩佛』

- 相 浦 杲 18
尾 崎 雄 二 郎 6
黎 活 仁 29
山 田 敬 三 49
岡 田 英 樹 36
永 島 廉 司 25
楠 原 俊 代 33
相 浦 杲 1
島 田 久 美 子 8
谷 友 幸 11
太 田 進 3
相 浦 杲 8
三 枝 裕 美 43
松 村 昂 21
吉 田 富 夫 14
藤 野 恒 道 4

- 神 田 喜 一 郎 17
黒 川 洋 一 16
三 木 克 己 3
船 津 富 彦 9
清 水 茂 18
西 村 富 美 子 21

- 中 村 幸 彦 4
一 海 知 義 50
入 矢 義 高 20
入 矢 義 高 21
清 水 茂 16
清 水 茂 43

13 學界展望

書評：『葛雲文璇奎博士華甲紀年論文集』

紹介：フランスにおける中國文學研究の現状

紹介：中國文學の領域におけるドイツ支那學の業績

紹介：中國社會科學院文學研究所

清水茂教授著作目錄

最近國內文獻目錄（1953年11月～1954年8月）

最近文獻目錄（1954年9月～1965年6月）

最近國內文獻目錄（1965年7月～1966年12月）

最近國內文獻目錄（1981年7月～1989年12月）

近著摘錄

新書摘錄

沈 慶 吳 39
M・カルタンマルク 18
興 膳 宏 譯
ギュンター・デボン 20
村上 哲 見 譯
薛 智 37

40

1

2～21

22

34～41

43, 44

45～50

中國文學報
第五十冊